

児童生徒の個別的な人権課題に対する理解を促す授業モデルの研究実践事例

1. 基本情報

○市町村名

みやま市

○学校名

みやま市立大江小学校

○学校の概要

(令和2年2月1日現在)

7学級(うち特別支援学級:1学級) 全児童数:162人

○学校のURL

http://www.city.miyama.lg.jp/info/prev.asp?fol_id=17195

○調査研究のテーマ

小学校における「性的マイノリティ」の人権に係る理解を促す授業モデルを開発する実践的な研究

2. 調査研究のテーマを設定した背景

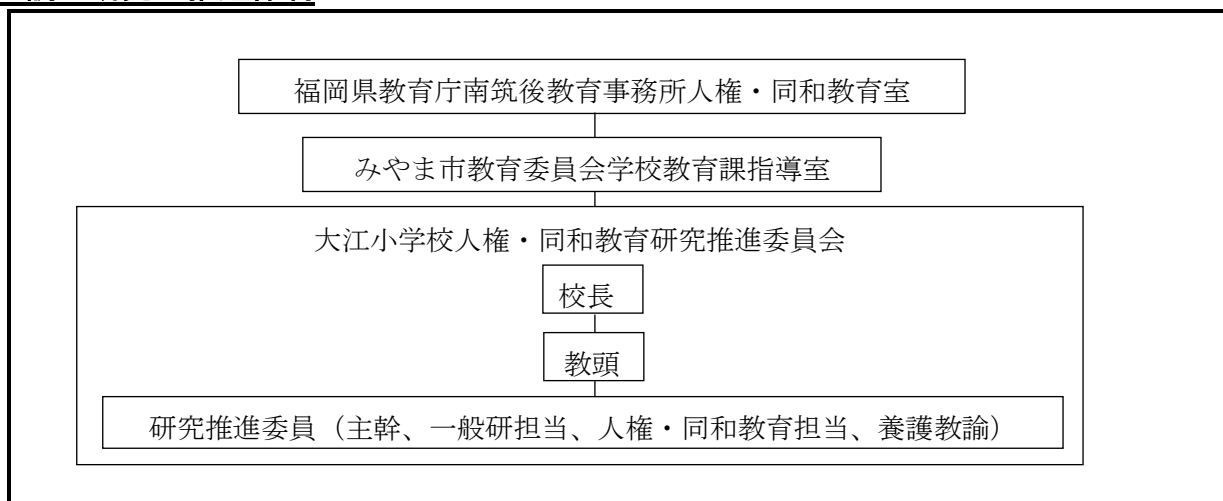
本校は、伝統芸能「幸若舞」を受け継ぐ昔ながらの集落が存在する田園に囲まれた住宅街にあり、全校児童162名の小規模校である。

この研究は、昨年度に引き続き二年目である。昨年度までの研究で見えてきたものは、もともと性は男女で分けられるものではなく多様な性があり、自分もその中の一人であるという捉え方が大切であるということであった。また、児童アンケートによると、固定的な男女観は低学年の方がより強くみられ、その意識を捉え直す機会を発達段階に応じて設けることが大切であるという認識にたどり着いた。

よって本年度は、昨年度に引き続き「性の多様性」を前提とした環境づくりを進めるとともに、違いを認め相手の人格を尊重する人権教育の推進を図りつつ、発達段階に応じて多様な性への理解を促し、尊重する態度を身に付ける教育を推進した。そして、互いの多様性を認め合うことで、自分らしさを発揮し安心して生活ができる学校づくりにつなげた。

また、児童が中学校でも自分らしさを発揮し、安心して過ごせるよう、中学校区の小中学校とも連携し、「性の多様性」への理解を促す教育の普及についても研究を進めた。

3. 調査研究の推進体制



4. 調査研究の内容等

○現状の分析と課題

昨年度は、児童意識アンケートの結果から、低学年の方が「男子だから〇〇しないといけない。女子だから〇〇しないといけない。」という固定的な男女観を強くもっていることが分かった。そこで、その意識を捉え直す学習を発達段階に応じて仕組んだ。その結果、「男女で好きな色は決まっているか」等の男女の固定的な見方を見取る項目において児童の2割に変化がみられた。しかし、固定的な見方をしている児童（思う、まあまあ思うを含む）はまだ1割近くおり、更なる意識の改革を図る学習に取り組んでいかなければならない。

また、本校は、全校児童162名の小規模校で単学級のため、お互いの性格や特性などは学年が上がるにつれ理解も深まり、個性として認めている部分もある。しかし、中学校に進学すると、4つの小学校が一緒になるため、その特性が個性として受容されていくか心配な部分もある。そのため、卒業した子どもたちが中学校でも自分らしさを発揮し、安心して過ごせるよう、中学校区の小学校や中学校とも連携し、「性の多様性」への理解を促す教育の普及についても取り組んでいかなければならない。

○調査研究の内容

①大江小学校「人権教育指定校事業」実行委員会

- ・調査研究の実施主体として、全体計画の策定・会計処理、総括、及び調整を行う。
- ・視察研修での県内外の先進的な実践・研究における情報収集をはじめ、他機関との連携や渉外にあたる。

②「性的マイノリティ」の人権等に係る研修

- ・講師招聘研修会の開催（中学校区教職員にも対象を広げた研修会）

③授業モデルに係る実践・研究・まとめの作成

- ・教科学習、道徳科及び特別活動等における授業開発、検証、修正

④自尊感情等に係る実態把握と課題分析、個別支援

- ・実態調査（学級力アンケート等による実態把握と検証）

○実施方法

①先進校視察

「性の多様性」に関する教育に先進的に取り組んでいる、岡山県倉敷市教育委員会、倉敷市立第一福田小学校、福岡県糸島市立長糸小学校を視察し、研究の進め方、学校全体での取組等を学んだ。その研究内容・取組について全職員で共通理解するとともに、研究の資料として活用した。

②職員研修

本年度は職員の3分の2が新しく異動してきたため、再度、職員が学ぶところから始めた。まず、当事者の方より「性的マイノリティ」についての実態と学校における教育的配慮について学んだ。「性の多様性」の視点に立った児童への対応を再確認し、学校環境の改善に向けて共通理解を図った。また、南筑後教育事務所の指導主事を講師として招き、「性の多様性」に係る授業の在り方についての研修会及び授業研究会を行った。

本年度は中学校区の小学校や中学校と連携を図るため、校内研修会の案内を各学校に出したことで、各校の代表者も共に学ぶことができた。

1) 当事者の方より学ぶ(5月30日)

当事者児童に寄り添うために ～一人ひとりの多様な性～

講師：「LGBTの家族と友人をつなぐ会」理事 古野 ひとみ さん

古野さんからは、以下の内容について話して頂いた。

- 当事者の児童生徒が一人で悩みを抱えている現状
- 「性の多様性」を考えるための性の4つの要素
- 性的多数派少数派すべてを表す考え方「SOGI」

2) 授業づくりについて学ぶ(6月25日)

「性的マイノリティ」の人権に係る理解を促す授業モデルの開発
南筑後教育事務所 人権・同和教育室 大久保 直樹 指導主事

教育事務所指導主事の指導の下、「性の多様性」に関するカリキュラム作成の演習を行った。昨年度作成した授業モデルを中心教材に据え、その教材につなげるために、他教科教材等でどのように関連を図っていけるか検討を行った。

③人権教育研修会(7月13日)

保護者・地域を対象に、当事者の方と当事者の保護者の方を講師として招き、研修会を行った。この研修会も中学校区の小中学校に参加を呼びかけ、来て頂いた。

「知っていますか 性の多様性」～すべての子が生きやすい社会を目指して～
講師：「LGBTの家族と友人をつなぐ会」理事 古野ひとみさん他

この研修会では、性的マイノリティの子どもたちが誰にも相談できずに一人で悩んでいるという実態を知り、まずは近くの方が「性の多様性」について知ることの大切さ、子どもの在りのままを個性として認めることの大切さを学んだ。

④授業づくり（授業モデルの開発）

「性の多様性」の理解を促す学習を行うにあたっては、何よりも違いを認め合う素地づくりが大切である。そこで、低・中・高学年の各発達段階において、卒業するまでに育てたい資質・能力を職員で検討しながら授業づくりを行い、市内の小・中・高等学校職員へ公開授業を行った。特に、6年生の授業では、南筑後教育事務所の指導主事及び当事者の方を招き、市内の小・中・高等学校の教職員に向けて公開授業と授業研究会を行った。

また、保護者への啓発として授業参観において、以下の表の通り、「性の多様性」に関する授業を行った。

学年	授業参観の題材名		公開授業の題材名	
1年	学活	すきなものなあに？	学活	あなたのすきないろは？
2年	学活	すきな色は何色？	道徳	自分らしくていいだよ『わたしはあかねこ』
3年	学活	自分や友達の『すき』について考えよう	学活	ちがってもいいよ
4年	学活	どんな職業につきたい？	学活	ちがいのちがいの
5年	学活	自分を出せるクラスについて考えよう	学活	男らしさ女らしさ
6年	学活	ありのまま自分らしく生きる	学活	自分らしさのものさし

6年生の授業では、南筑後教育事務所指導主事及び当事者の方を招き、公開授業及び授業研究会を行った。

1) 公開授業

学級活動 【題材名】自分らしさのものさし

指導者 6年1組担任 小森田 幸栄子、養護教諭 吉村 明子、
ゲストティーチャー

授業では、『自分らしさのものさし』を使いながら、4つの観点からみた「自分らしさ」を考えていった。そして、地元出身のゲストティーチャーより、子どもの頃の話や、今の思いを聞き、自分と友達の「自分らしさ」を認めていくことの大切さを学んだ。

1) 授業研究会

性的マイノリティの人権に係る理解を促す授業の在り方について

～人権教育研究指定校事業の取組を通して～

南筑後教育事務所 人権・同和教育室 大久保 直樹 指導主事

前半の授業整理会では、ゲストティーチャーと「日本性同一性障害と共に生きる人々の会」九州支部長の黒部美咲様にも出席して頂いた。参観者からの質問に、当事者の立場として回答して頂き、有意義な会にすることができた。

後半では、教育事務所指導主事よりこれまでの本校の研究を踏まえ、みやま市内の各学校でどのように「性の多様性」に関する教育に取り組むべきかを指導して頂いた。

⑤学校教育全体としての取組

縦割り班活動を利用した「いいね集会」、児童保健委員会による呼びかけ、図書館・保健室の掲示、地域ボランティアによる関連絵本の読み書かせなど、機会を捉えて他者理解・多様性の尊重に関する指導と啓発を行った。

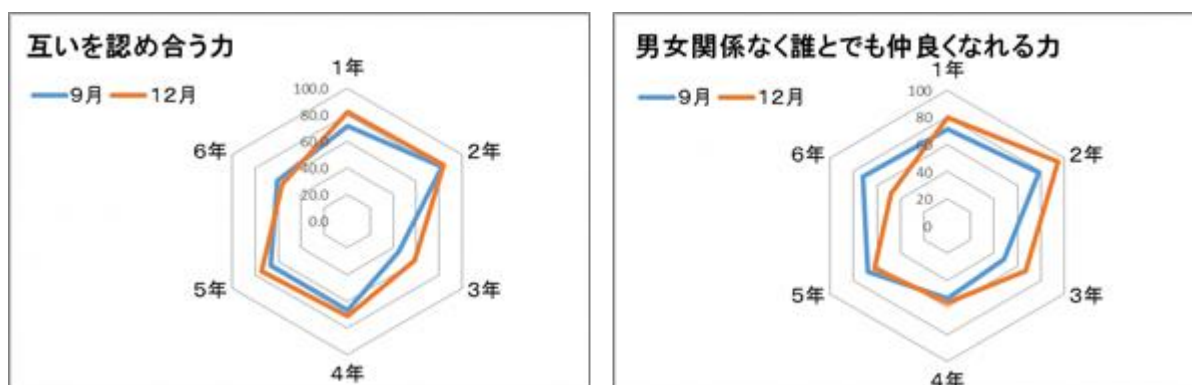
また、児童の男女観及びそれに伴う人権感覚の実態を捉えるために9月と12月に意識アンケートを実施した。各学級では、学級力アンケートを実施し、「性の多様性」への理解を促す教育による児童の変容を捉えている。

⑥保護者・地域への啓発

人権教育推進にあたっては、保護者や地域の方の意識改革も重要である。授業参観や懇談会、研修会、学校だより、幼保小連絡会などを通して保護者や地域に情報発信及び啓発を行った。

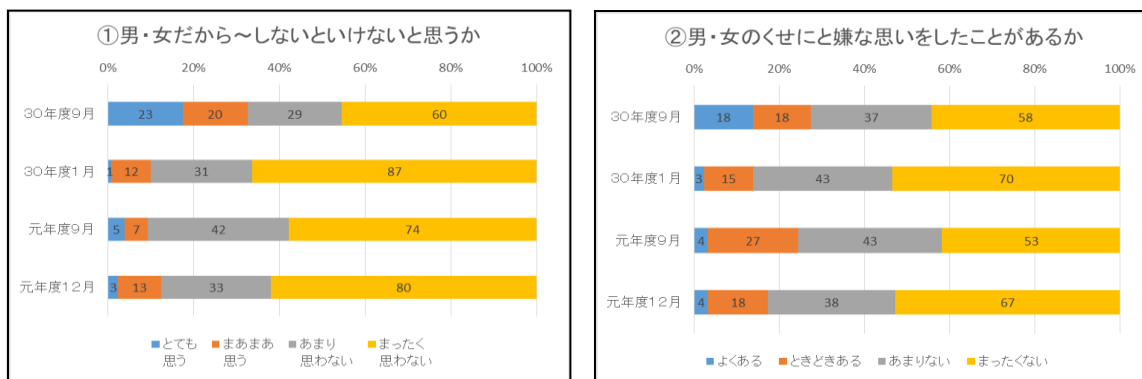
○検証・評価・普及

今年度の取組実施前後の学級力アンケートの結果の一部をグラフ化したものである。



「性の多様性」に関わる二つの項目をみると、特に下学年において向上している。これは各学級においても日々の生活の中で担任と児童が「性別の垣根を越えた個性の尊重」に意識的に取り組んだ結果であると考えられる。

次は、男女観意識アンケートの2年間に渡る変化をグラフ化したものである。



昨年度9月と本年度12月を比較すると、すべての項目において、性に対する固定観念を持つ児童が減少した。これは2年間の取組の成果だと捉えている。

一方、「性の多様性」への理解を促す教育は、2学期を中心に行なったため、昨年度1月と本年度9月を比較すると、薄れていた固定観念がもとに戻る傾向にある。そのため、児童の意識を高めるためにも、年間を通して意図的・計画的に実践を行う必要がある。

今後も「性の多様性」への理解を促す教育を学校教育全体で継続的に行うことによって、引き続き児童の意識改革と持続を図り、すべての児童が安心して過ごせる学級・学校づくりにつなげていきたい。

また本年度は、「性の多様性」への理解を促す授業を、みやま市内の小・中・高等学校の教職員へ授業公開し、作成した指導案集を市内の各校に配付した。その結果、他の小学校でも授業が実践されたり、各校の来年度の教育指導計画に反映されたりするなど研究の成果を中学校区のみならず、みやま市内の各学校に広く普及することができた。

今後も、「性の多様性」の理解を促す教育の地域への普及と啓発のために、教育指導計画に授業を位置付け、授業参観での授業実施と市内各学校に向けた公開授業を行っていく。